

情	報	シ	ス	テ	ム	開	発	に	お	け	る	品	質	を	確	保	す	る	た	め	の	活	動	計	
画	に	つ	い	て																					
1.	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	の	概	要	と	、	与	え	ら	れ	た	品	質	上	の	目	標	に	つ	
い	て																								
1-1.	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	の	概	要																
	私	が	管	理	し	た	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	は	、	イ	ン	タ	ー	ネ	ッ	ト	上	で	マ	
	一	ケ	テ	ィ	ン	グ	リ	サ	ー	チ	を	行	う	A	社	の	基	幹	系	シ	ス	テ	ム	で	、
	業	務	管	理	・	会	員	管	理	・	ア	ン	ケ	ー	ト	回	答	・	会	員	MY	ペ	ー	ジ	の
	4	つ	の	サ	ブ	シ	ス	テ	ム	か	ら	な	る	Web	ア	プ	リ	ケ	ー	シ	ョ	ン	シ	ス	テ
	ム	の	再	構	築	で	あ	る	。																
	A	社	か	ら	は	、	イ	ン	タ	ー	ネ	ッ	ト	リ	サ	ー	チ	の	市	場	規	模	が	拡	
	大	し	て	い	る	こ	と	か	ら	、	大	手	の	参	入	や	同	業	他	社	と	の	競	争	が
	激	化	し	て	い	た	た	め	、	戦	略	的	な	シ	ス	テ	ム	の	リ	プ	レ	イ	ス	が	要
	求	さ	れ	て	い	た	。																		
	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	の	規	模	は	100	人	月	で	、	総	費	用	は	1	億	円	、	開	
	発	期	間	は	10	ヶ	月	で	、	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	の	体	制	は	PM	1	名	、	NW/DB	

が	1	名	、	AE	が	4	名	、	PG	が	4	名	の	10	人	体	制	と	し	た	。	何	れ	の
メ	ン	バ	ー	も	社	内	か	ら	調	達	し	た	メ	ン	バ	ー	で	あ	り	、	PG	の	2	名
を	除	い	て	は	経	験	も	あ	る	中	堅	社	員	で	あ	っ	た	が	、	PG	の	2	名	は
入	社	2	－	3	年	目	の	若	手	社	員	で	あ	っ	た	た	め	、	実	装	・	単	体	テ
ス	ト	の	品	質	に	は	考	慮	し	な	が	ら	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	を	運	営	す	る	必
要	が	あ	っ	た	。																			
1.2.	品	質	上	の	目	標																		
	A	社	か	ら	与	え	ら	れ	た	品	質	上	の	目	標	と	し	て	は	、	A	社	が	保
有	す	る	10	万	人	程	の	会	員	が	回	答	し	易	い	ユ	ー	ザ	ビ	リ	テ	ィ	に	優
れ	た	ア	ン	ケ	ー	ト	画	面	を	構	築	す	る	こ	と	と	、	PC	の	他	携	帯	電	話
か	ら	も	HTTP	通	信	に	よ	る	ア	ン	ケ	ー	ト	回	答	画	面	へ	の	ア	ク	セ	ス	
が	あ	り	、	特	に	メ	ー	ル	マ	ガ	ジ	ン	を	送	付	す	る	と	瞬	間	的	に	大	量
の	ア	ク	セ	ス	が	集	中	す	る	こ	と	が	あ	る	た	め	、	10	万	人	の	会	員	の
負	荷	に	も	耐	え	ら	れ	る	シ	ス	テ	ム	を	構	築	す	る	こ	と	が	品	質	の	目
標	と	し	て	要	求	さ	れ	て	い	た	。													

2.	品	質	上	の	目	標	を	達	成	す	る	た	め	に	作	成	し	た	活	動	計	画			
2-1.	予	算	や	納	期	の	制	限																	
	当	初	開	発	期	間	は	10	ヶ	月	で	あ	っ	た	が	、	競	合	他	社	が	相	次	い	
	で	サ	ー	ビ	ス	リ	ニ	ュ	ー	ア	ル	に	伴	う	シ	ス	テ	ム	リ	リ	ー	ス	を	行	っ
	た	た	め	、	A	社	か	ら	段	階	的	に	シ	ス	テ	ム	を	リ	リ	ー	ス	し	た	い	と
	の	要	望	が	あ	っ	た	。	ま	だ	要	件	定	義	フ	ェ	ー	ズ	の	初	期	段	階	で	あ
	っ	た	こ	と	と	、	ス	コ	ー	プ	を	限	定	す	る	こ	と	を	前	提	に	、	再	度	見
	積	も	り	を	行	い	、	基	本	機	能	を	6	ヶ	月	間	で	リ	リ	ー	ス	し	、	段	階
	的	に	2	次	、	3	次	と	リ	リ	ー	ス	す	る	こ	と	に	決	ま	っ	た	。	但	し	ス
	コ	ー	プ	を	限	定	し	た	と	は	い	え	、	6	ヶ	月	と	い	う	短	期	間	で	リ	リ
	ー	ス	す	る	運	び	と	な	っ	た	た	め	、	作	業	の	手	戻	り	や	遅	延	は	許	さ
	ず	タ	イ	ト	な	ス	ケ	ジ	ュ	ー	ル	と	な	っ	た	。									
2-2.	作	成	し	た	活	動	計	画																	
	ア	ン	ケ	ー	ト	回	答	画	面	の	ユ	ー	ザ	ビ	リ	テ	ィ	の	品	質	に	つ	い	て	
	は	、	A	社	か	ら	A	社	ク	ラ	イ	ア	ン	ト	か	ら	の	要	望	も	画	面	レ	イ	ア
	ウ	ト	に	反	映	さ	せ	た	い	と	の	打	診	が	あ	っ	た	た	め	、	要	件	定	義	・

外	部	設	計	期	間	中	に	仕	様	は	FIX	さ	せ	た	と	し	て	も	、	そ	の	後	、	開
発	期	間	中	に	、	細	か	な	修	正	が	発	生	す	る	こ	と	が	想	定	さ	れ	た	。
通	常	の	対	応	だ	と	、	再	見	積	も	り	し	予	算	・	ス	ケ	ジ	ュ	ー	ル	を	調
整	す	る	が	、	ス	ケ	ジ	ュ	ー	ル	を	延	ば	す	事	は	現	実	的	に	は	不	可	能
で	あ	っ	た	た	め	、	ス	ケ	ジ	ュ	ー	ル	内	で	対	応	す	る	た	め	の	以	下	の
対	策	を	考	え	た	。																		
	・	A	社	担	当	者	や	営	業	担	当	者	を	打	合	せ	に	招	き	、	プ	ロ	ト	タ
イ	ピ	ン	グ	ツ	ー	ル	を	用	い	て	そ	の	場	で	修	正	で	き	る	細	か	な	仕	様
変	更	は	即	対	応	し	、	対	応	で	き	な	い	も	の	は	2	次	、	3	次	開	発	に
ま	わ	す	交	渉	が	行	え	る	場	を	作	り	、	仕	様	変	更	を	抑	制	し	た	。	
	・	PG	担	当	者	に	、	プ	ロ	グ	ラ	ム	ロ	ジ	ツ	ク	と	画	面	デ	ザ	イ	ン	
(HTML	、	Javascript)	を	分	離	さ	せ	て	設	計	す	る	よ	う	に	指	示	し	、	画		
面	デ	ザ	イ	ン	の	変	更	が	プ	ロ	グ	ラ	ム	ロ	ジ	ツ	ク	に	影	響	し	て	、	手
戻	り	作	業	が	起	き	る	こ	と	を	予	防	し	た	。	ま	た	、	品	質	目	標	の	達
成	基	準	に	つ	い	て	は	、	実	際	に	A	社	会	員	に	対	し	て	ア	ン	ケ	ー	ト
回	答	画	面	の	操	作	性	に	つ	い	て	の	ア	ン	ケ	ー	ト	を	行	い	、	回	答	結

果	よ	り	80%	以	上	が	使	い	や	す	い	と	回	答	し	て	い	れ	ば	達	成	で	き	た
と	判	断	す	る	こ	と	と	し	た	。														
	パ	フ	オ	ー	マ	ン	ス	の	品	質	に	関	し	て	は	、	ま	ず	は	A	社	に	パ	フ
オ	ー	マ	ン	ス	に	関	す	る	ヒ	ア	リ	ン	グ	を	実	施	し	た	。	そ	の	結	果	、
現	在	の	会	員	は	10	万	人	ほ	ど	い	る	が	、	A	社	の	経	営	戦	略	会	議	に
て	シ	ス	テ	ム	の	リ	プ	レ	イ	ス	後	に	積	極	的	に	会	員	の	獲	得	キ	ャ	ン
ペ	ー	ン	な	ど	を	行	う	た	め	、	1	年	以	内	に	会	員	を	20	万	人	程	に	増
や	す	計	画	が	あ	る	こ	と	が	わ	か	っ	た	。	ま	た	、	会	員	は	携	帯	電	話
で	ア	ン	ケ	ー	ト	回	答	メ	ー	ル	を	受	信	後	、	一	斉	に	会	員	MY	ペ	ー	ジ
に	ア	ク	セ	ス	す	る	傾	向	が	強	い	こ	と	も	わ	か	っ	た	。	一	斉	に	ア	ク
セ	ス	が	あ	っ	た	場	合	、	WEB	サ	ー	バ	の	負	荷	は	ロ	ー	ド	バ	ラ	ン	サ	で
ス	ケ	ー	ル	ア	ウ	ト	が	可	能	な	構	成	な	た	め	、	運	用	で	サ	ー	バ	増	強
な	ど	の	対	応	が	可	能	で	あ	り	、	リ	ス	ク	は	少	な	い	と	考	え	て	い	た
が	、	DB	サ	ー	バ	は	当	初	ア	ク	テ	ィ	ブ	ス	タ	ン	バ	イ	構	成	を	検	討	し
て	お	り	、	1	台	で	全	て	の	WEB	サ	ー	バ	か	ら	の	ア	ク	セ	ス	を	受	け	付
け	る	予	定	で	い	た	が	、	ヒ	ア	リ	ン	グ	し	た	内	容	よ	り	、	ア	ン	ケ	ー

ト	回	答	結	果	を	書	込	む	処	理	が	ボ	ト	ル	ネ	ツ	ク	と	な	り	パ	フ	オ	ー	
マ	ン	ス	が	低	下	す	る	リ	ス	ク	が	あ	る	こ	と	が	想	定	さ	れ	た	。	ま	た	、
DB	サ	ー	バ	は	業	務	シ	ス	テ	ム	か	ら	も	使	用	さ	れ	る	た	め	、	集	計	処	
理	が	同	時	に	走	る	と	DB	サ	ー	バ	の	パ	フ	オ	ー	マ	ン	ス	は	更	に	悪	化	
し	て	し	ま	う	。	よ	っ	て	、	DB	サ	ー	バ	を	ア	ク	テ	ィ	ブ	ス	タ	ン	バ	イ	
か	ら	ア	ク	テ	ィ	ブ	ア	ク	テ	ィ	ブ	に	変	更	し	、	更	新	系	の	処	理	と	参	
照	系	の	処	理	で	DB	サ	ー	バ	を	分	散	す	る	構	成	に	し	、	シ	ス	テ	ム	環	
境	面	で	想	定	さ	れ	る	ボ	ト	ル	ネ	ツ	ク	を	排	除	し	た	。	次	に	プ	ロ	グ	
ラ	ム	面	の	対	応	と	し	て	、	開	発	規	約	に	DB	サ	ー	バ	に	負	荷	を	掛	け	
ず	に	WEB	サ	ー	バ	側	の	ロ	ジ	ツ	ク	で	対	応	す	る	旨	を	明	記	し	た	。	SQL	
文	に	つ	い	て	は	、	DB	担	当	者	の	承	認	を	得	て	か	ら	実	装	す	る	よ	う	
に	明	記	し	た	。	以	上	の	シ	ス	テ	ム	環	境	面	と	プ	ロ	グ	ラ	ム	ロ	ジ	ツ	
ク	面	の	2	点	が	パ	フ	オ	ー	マ	ン	ス	テ	ス	ト	後	の	手	戻	り	を	抑	制	す	
る	た	め	に	行	っ	た	対	策	で	あ	る	。	ま	た	、	パ	フ	オ	ー	マ	ン	ス	に	関	
す	る	品	質	の	達	成	基	準	は	、	20	万	の	会	員	か	ら	同	時	間	帯	に	大	量	
ア	ク	セ	ス	し	た	場	合	に	5	秒	以	内	に	画	面	遷	移	が	可	能	な	こ	と	と	

業	務	シ	ス	テ	ム	か	ら	も	、	並	行	し	て	集	計	機	能	を	実	行	し	、	規	定
時	間	以	内	に	集	計	が	完	了	す	る	こ	と	と	し	た	。							
3.	評	価	お	よ	び	改	善	点																
3-1.	評	価	し	た	点																			
	短	納	期	と	い	う	制	限	の	も	と	、	リ	ス	ク	を	洗	い	出	し	事	前	に	対
策	を	講	じ	た	お	か	げ	で	、	A	社	の	求	め	る	品	質	を	達	成	し	た	シ	ス
テ	ム	の	構	築	が	行	え	た	点	は	全	体	を	通	し	て	評	価	で	き	る	と	考	え
て	い	る	。																					
3-2.	改	善	点																					
	DB	サ	ー	バ	を	ア	ク	テ	ィ	ブ	ア	ク	テ	ィ	ブ	構	成	と	し	た	た	め	、	ス
タ	ン	バ	イ	機	が	必	要	と	な	っ	て	し	ま	っ	た	が	、	当	初	の	予	算	に	は
ハ	ー	ド	ウ	ェ	ア	費	用	お	よ	び	構	築	費	用	を	組	み	込	ん	で	い	な	か	っ
た	こ	と	は	今	後	の	反	省	点	と	し	て	次	に	活	か	し	た	い	。				

論文添削結果

2010.04.15 (株) テレコムリサーチ
添削者：佐藤 創

【添削情報】

論文提出者：●●●●●様
問題 : 平成19年度 問3

【免責事項・その他】

本添削結果は、添削者個人の判断によるものであり、所属する会社や組織を代表する意見ではございません。また、本添削結果に即したからといって試験の合格を保証するものではありません。本添削結果の使用の結果生ずるあらゆる損害や被害について添削者は免責されるものとします。本添削結果の著作権は添削者に帰属します。

[目次]

1. 論文見出し構成の例
2. 論述すべき内容
3. 添削結果
4. 講評
 - (1) 添削結果の根拠について
 - (2) 講評の詳細
 - (3) 総評
5. 今後の学習に関するコメント

1. 論文見出し構成の例

以下に添削者が考える、本問題の見出し構成の例を示します。

1. 私が携わったプロジェクトの概要
 1. 1 プロジェクト概要
 1. 2 与えられた品質上の目標
2. 品質確保のための活動計画
 2. 1 プロジェクトの制約条件
 2. 2 品質確保のための活動計画
 - (1) 品質を作りこむためのプロセス
 - (2) 品質を確認するためのプロセス
3. 評価と今後の改善点
 3. 1 活動計画の評価
 3. 2 今後の改善点

2. 論述すべき内容

以下に添削者が考える、問題文から読み取れる題意と、求められる論述内容について、1. 論文見出し構成例に沿って示します。

見出し	論述すべき内容	備考
1. 1	プロジェクトの特徴、あなたの立場、求められる要件などを明記。 <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト概要、プロジェクト体制 ・工期、工数、契約内容、担当工程など ・あなたの立場・役割 ・プロジェクトの制約事項・条件など ⇒今回の論文では、品質目標や予算・納期などの制約条件は、1. 2 以降に記述が求められているため、ここでは詳細に記述する必要は無い。記述するにしても概要や、伏線程度にとどめておく。	本論文では、計画プロセスのみを論じる。実行プロセスは論じない。論じるとしても3. 項の評価にて、計画を実行した結果の顛末を簡潔に記載する程度である。
1. 2	①プロジェクトに与えられた品質目標を具体的に記述すること ⇒信頼性、性能、操作性などの品質目標を具体的に記述すること。また品質目標が設定された背景（理由）についても記述を行う。	
2. 1	①プロジェクトの制約条件を具体的に記述すること ⇒品質保障計画を策定する際の制約条件となる、予算・納期、及びその他プロジェクト特性について具体的な記述を行う。なぜ制約条件が発生したかの背景（理由）も合わせて記述する。また、後に記述する品質保証計画の内容と、制約条件の内容が矛盾してはいけない。	2章は比較的論述の自由度が高いため、何でも書けそうだと思います。しかし、こうした問題こそ、問題文の題意に沿った論述を心がける必要がある。
2. 2	①品質保証計画策定についてポイントをはずさない記述をする ⇒問題文では、「品質を作り込むためのプロセス」、「品質を確認するためのプロセス」と抽象的に記述がされているが、これは具体的には開発工程とテスト工程に対応する。開発プロセスと、レビュー・プロセス及びテスト・プロセスの設計についての論述が特に求められている。 ②品質目標、制約条件、品質保証計画の3つが矛盾無く論述されていること	

	⇒制約条件に起因した、品質目標を達成する上での問題を解決できる品質保証計画を論述すること。特に、プロジェクトマネージャの視点での創意工夫や考えが十分に盛り込まれた論述が求められる。	
3. 1	①品質保証計画の実行結果の簡単な顛末を述べ、具体的な成果を挙げて客観的に評価していること。	
3. 2	①これまでの論述の内容と矛盾がない改善点を述べていること。	

本問は品質管理の計画プロセスに関して問われていますが、記載すべき内容の自由度が比較的大きいと思います。自由度が大きい分だけ、実務経験が豊富な人ほど書きやすい問題だと思います。しかし逆を言えば経験が少ない人ほど、題意を捉えにくい問題でもあります。特に、問題文にある「品質を作りこむためのプロセス」と「品質を確認するためのプロセス」という言葉に対して、すぐに具体的なプロセスが思い浮かばないようであれば、この問題は選択できないと考えます。

また、品質目標以外のプロジェクトの制約条件についても、具体的な論述が必要です。そして、その制約条件を十分に理解し、その影響を少なくするような工夫を盛り込んで、品質保証計画を策定するストーリー展開を論じる必要があります。

3. 添削結果

添削者が考える論文評価結果を、A～Dランクに分けて示します。合格はAランクのみです。

評価ランク	内容	判定
C	内容が不十分である	不合格

※A～Dランクの評価内容は以下の通りです。

- A：合格水準にある
- B：合格水準にあと一步である
- C：内容が不十分である
- D：出題の要求から著しく逸脱している

添削者が考える、各種の詳細な評価項目について、それぞれA～Dランクを示します。

評価項目	評価基準	評価ランク	内容
題意の適切な盛り込み	設問や問題文で求められる題意が適切に盛り込まれていること	C	内容が不十分
論理性	論述に根拠があり、論理的な内容になっていること <ul style="list-style-type: none"> ・行動や考えの背景として、経験や知識、分析結果に裏付けられた根拠が論述されていること ・行動した結果やプロジェクトの顛末を書いただけの論文になっていないこと ・論述が、具体的・定量的で、かつ論理的であること 	A	合格水準にある
プロマネの創意工夫	プロジェクトマネージャとしての創意工夫・判断基準が盛り込まれていること <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトマネージャらしい総合的な考え方（創意工夫）を論述していること ・プロジェクトマネージャの役割や責任を理解した上で、適切な行動等について論述していること ・専門用語などは本来の意味や目的を理解して用いていること 	B	合格水準にあと一步
文章表現	文章表現が適切で、かつ理解しやすい文章であること <ul style="list-style-type: none"> ・論文としてふさわしい文章表現であること ・文章の内容が理解しやすいこと ・助詞などの用法に誤りがないこと ・誤字脱字がないこと 	B	合格水準にあと一步

4. 講評

添削者が考える講評について示します。

(1) 添削結果の根拠について

評価ランクがCである理由は以下です。

1. 題意の適切な盛り込み

「品質の作り込みプロセス」の論述になっておらず、技術的な対策内容を述べているため、この点で題意を外してしまっている。技術的にどのように品質確保したのかを述べるのではなく、プロジェクト制約と品質目標を満足するために、どのような品質の作り込みプロセスを計画したのかを論述する問題である。また「品質を確認するプロセス」についての論述がなかったため、この点でも題意を適切に盛り込めていない。

- ①品質目標は定量的な数値目標として、初めに述べて欲しい。
- ②画面レイアウトにユーザ要望を取り込む件の対策は、品質の作り込みプロセスに関連した活動ではない。
- ③パフォーマンス品質の作り込みの論述は、「計画した品質の作り込みプロセス」についてプロジェクトマネジメントの観点からの論述になっていない。技術面の論述であり、プロマネの論文としてふさわしくない。
- ④品質を確認するプロセスの計画について述べられていない。
- ⑤活動の評価において、具体的な成果を挙げて評価していない。

2. 論理性

プロマネの主張がよく伝わってくる論文であり評価できる。プロマネの考えやその根拠などの論述は問題なくできていたと考える。

3. プロマネの創意工夫

プロマネの考えが多少検討不足であり、創意工夫が足りないと感じる箇所がある。

- ①ユーザビリティの品質目標は、アンケートの満足度だけだと、プロジェクトの開発途中で品質目標を達成できているのかを確認できず、品質目標の達成のための施策が効果をあげているかを測定できない。そのため、これだけでは品質目標としてふさわしくない。
- ②今後の改善点の内容は、他のプロジェクトにも活かせるようにもう少し踏み込んだ内容を述べてほしい。

4. 文章表現

1文が長く、読みにくい箇所が目立った。文章が長いとそれだけ何を言いたいのかが読み手に伝わりにくくなるため、文章を短く区切って歯切れを良くすることが必要である。

- ①1文が長く、言いたいことが伝わりにくい箇所がある。

以下に詳細の講評と、総評を示します。

(2) 講評の詳細

詳細講評については、論文の流れに沿って設問アから順に説明させていただきます。説明の内容が、(1) 添削結果の根拠 のいずれに相当するのかを各説明に示します。ただし、文章表現に関する指摘は最後にまとめて行います。

なお、講評中で例文を示すことがあります。あくまでも参考までとして頂ければ幸いです。もちろん例文をそのままご利用されること自体には全く問題はございません。それによる「文字数の配慮」、「論文の流れとの整合性」等々につきましては十分ご考慮いただけますよう、宜しく願い申し上げます。

(ア) [評価項目：題意の適切な盛り込み 指摘番号：①]

「1-2. 品質上の目標」において、操作性の面と処理能力の面の2つの品質目標を述べております。ただし具体的な数値目標が述べられておりませんでした。品質目標を受けて、具体的な数値目標として落とし込みがなされていることが望ましいと思います。論述の後半で具体的な数値目標が述べられておりますので、この内容を本節に盛り込んでおく、後の論述もスムーズに読み進められるかと思えます。

(イ) [評価項目：題意の適切な盛り込み 指摘番号：②]

「2-2. 作成した活動計画」において、クライアントの要望を画面レイアウトに取り入れたいとの要望と、それに対応するために2次・3次開発に回すという対策は、「品質の作り込みプロセス」とは関係がないと考えられます。

スケジュールの面からの論述であり、品質の面からの論述ではありませんでした。本来述べるべき方向性としては、例えば、「クライアントの要望を取り入れる時に、どのようなプロセスや留意点などを採用することで、品質目標である操作性の観点を満足できるのか、そのプロセスを計画した」などのような内容をだと考えます。この点で題意を盛り込めていないと判断しました。

(ウ) [評価項目：題意の適切な盛り込み 指摘番号：③]

「2-2. 作成した活動計画」において、パフォーマンスに関する品質の作り込みプロセスの論述をされていますが、内容が技術面に偏りすぎであり、また「品質を作り込むプロセスを計画した」という内容とは方向性が異なっております。本論文の内容は「技術的にどのようにすればパフォーマンスを満足できるか、その具体的な方法論」について述べられています。この点で、論者がプロマネではなく、設計者であるかのような内容であり、プロマネの論文としてふさわしくないと考えます。

本来述べるべき論述の方向性としては、例えば「パフォーマンス目標が与えられ、これを実現するには、〇〇の施策を行う必要があるが、プロジェクト制約（予算・納期など）によって実現するには難しい。そのため〇〇の工夫を行い、品質を確保するプロセスとして定めることで品質確保を行おうと考えた」といったような流れで論述することが必要です。プロジェクトマネージャの視点から、品質の作り込みプロセス（開発プロセスなど）についての論述が求められています。技術的にどのように対応したのかを論述する問題ではありませんので、この点のご留意をお願い致します。

なお、論述内容ではDBを冗長構成からロードシェア構成へと変更したとのことですが、元々冗長構成にしていたのはシステムの信頼性を向上させるためだと考えられます。ロードシェア構成にすることで信頼性は低下しますが、この点はプロジェクトやシステムの観

点から問題はなかったのかを検討していないように見えます。プロジェクトマネージャであれば、技術的な対応策よりもシステム全体に与える影響などを把握できるような論述が必要だったように思います。

(エ) [評価項目：題意の適切な盛り込み 指摘番号：④]

「2. 品質上の目標を達成するために作成した活動計画」において、品質を確認するプロセスについて述べられておりません。本プロセスは、レビュー計画、テスト計画などとして論述する必要があります。本問題では主要な題意であり、本題意を盛り込めていないことは大きな減点になってしまうと考えます。

(オ) [評価項目：プロマネの創意工夫 指摘番号：①]

「2-2. 作成した活動計画」において、操作性の面の品質目標は、ユーザ・アンケート結果で測定することが述べられております。この目標自体は問題はありませんが、もう1つ、開発途中でも操作性の面で品質を確保できているのかを確認できる品質目標を設定すべきだったと考えます。

品質を確認するメトリクス測定方法には、大きく外部測定と内部測定の2つがあります。外部測定とは、システムを実際に動かした結果得られるもので、主にテストや、ユーザのアンケート調査などが該当します。内部測定とは、システムを開発している途中でシステムの品質を測定するもので、主に設計工程でのレビューなどによって測定されるものです。

本論文では、品質の作り込みプロセスを述べなければなりません。品質の作り込みは設計工程で行うものであり、開発途中で品質目標を達成できているのかを内部測定する必要があります。例えば、ユーザ・インタフェースに関する設計書1ページあたりのレビュー密度や、不具合密度、などといったメトリクスが内部測定のために必要になってきます。設計工程で確認できる品質目標を設定していないと、狙った品質が確保できているのかを誰も判断できません。その結果、操作性が確保できているのかどうかは、システムが出来上がってからのユーザ・アンケートでの一発勝負となってしまう、とても計画的なプロジェクト運営とはいえないと考えます。この点で、プロマネの創意工夫が不足していたと考えます。

(カ) [評価項目：題意の適切な盛り込み 指摘番号：⑤]

「3-1. 評価した点」における論述は、プロジェクトの具体的な成果をあげて、その結果、自分の活動は評価できる、という流れで述べるのが大切です。本論文では、「A社の求める品質を達成した」と述べられておりますが、具体的にどのような成果や結果をもって「品質を達成した」と考えたのでしょうか。例えば、「操作性の面では、ユーザ・アンケートで、使いやすいと回答した割合が90%であった」とか、「運用テストにおける、20万セッションを維持した状態での画面遷移テストで、1秒以内に画面遷移することができた」などといった、具体的な成果を述べる必要があったと思います。この点、具体的な成果の論述が不足していると考えます。

(キ) [評価項目：プロマネの創意工夫 指摘番号：②]

「3-3. 改善点」において述べられているのは、今回プロジェクトの反省点です。反省点をしっかり把握できている点は問題ありませんが、今後の改善として具体的にどんなことを行うかを述べていないと考えます。反省点だけの論述であり、今後の改善点として何を行うのかを明確に述べる必要があると思います。また、改善点は他のプロジェクトで

も活かせるような、汎化した内容を述べるのがベターです。本節で評価されるのは、内省して問題点を発見する能力や、問題点を個別に解決するのではなく、問題の根本原因にさかのぼって対策を検討できる能力などです。

例えば、「ハードウェアや構築費用が予算に組み込まれなかったのは、プロジェクトのWBSにこれら作業の記載が漏れていたからであった。今後は、必要な作業が計画から漏れないように、社内の標準WBSを改版し、ハードウェアや構築費用についても事前に漏れなく検討できるようにしたい。」などといった内容を述べるのがふさわしかったと思います。

(ク) [評価項目：文章表現 指摘番号：①]

(1)

【設問】 ア

【ページ】 1 ページ

【行数】 1 行、3 行

【指摘内容】 目次の文字数が長い。1 行以内に。

【指摘箇所】 ※目次の文字数が長いため 1 行以内に納めるようにご検討ください。

【修正例】 初めの 2 行は不要だと考えます。「1. プロジェクトの概要と・・・」も「1. 私が携わったプロジェクトの概要」程度に簡潔に述べて頂けるとすっきりした論文になります。

(2)

【設問】 ア

【ページ】 1 ページ

【行数】 6 行

【指摘内容】 文言を適切にしたほうが読みやすい

【指摘箇所】 私が管理したプロジェクトは、

【修正例】 私が担当したプロジェクトは、

(3) 全般的に文章が長い傾向があると思います。文章は短く区切ったほうが相手に意味が伝わりやすくなります。文章が長いほど、主語と述語、結論の対応があいまいになり、何を言いたいのか伝わりにくくなります。

以下に 1 つの文章が特に長い箇所を指摘します。この箇所は修正が必要だと考えます。

- ・設問：ア ページ：2 行数：8 行～15 行まで
- ・設問：イ・ウ ページ：1 行数：14 行～次ページの 2 行まで
- ・設問：イ・ウ ページ：3 行数：10 行～次ページの 2 行まで

(3) 総評

以下に本論文を振り返り、良かった点や指摘のまとめをさせていただきます。

1-1 節は、適切にプロジェクトの概要について適切に述べられていたと考えます。ここで、開発メンバのスキル不足について述べられていますが、後の論述ではこの内容が登場してきません。関係のない内容は述べないほうが、一貫した論述になると考えます。この点のご確認をお願いいたします。

1-2 節は、品質目標の具体的な数値も述べておかれると、なお良かったと思います。

2-1 節は、プロジェクトの制約が背景とともに明確に述べられており、大変理解しやすかったのでよかったですと思います。

2-2 節は、題意を満たせていなかったと考えます。品質の作り込みプロセスの論述ではなく、具体的な技術面の内容が多く、また品質を確認するプロセスについての論述がありませんでした。この点の修正を望みます。

3-1 節では、具体的な成果を挙げて、活動の評価して頂きたかったと思います。

3-2 節は、今後の改善点として具体的にどういった内容を行うのが述べられていませんでした。この点を追記する必要があると思います。

5. 今後の学習に関するコメント

題意を適切に把握できていない箇所が多かったと考えます。題意は「問題文や設問分を丁寧に読んで、述べられていることをすべて盛り込む」くらいの気持ちで読み取られるとよいかと思います。論述の内容自体は、プロマネの経験や主張が伝わってきました。せっかく良い内容でも、題意を間違えてしまえば評価が低くなってしまいます。これは大変もったいないですので、題意をきちんと把握された上で、論文作成をされると良いと思いました。

以上、添削結果のご確認の程よろしくお願ひ申し上げます。

添削結果の送付が試験直前になってしまい、大変ご迷惑をお掛けいたしました。

以上